

訂正箇所			原	文	訂	正	文																																																
番号	ページ	行																																																					
1	35	図4	 図4 遠藤章(1933年～)		 図4 遠藤章(1933～2024年)																																																		
2	74	表1	表1 観察・実験1の結果の例 <table><tr><th>金属</th><th>元素記号</th><th>見た目(色)</th><th>硬さ</th><th>密度 [g/cm³]</th><th>加熱したときのようす</th></tr><tr><td>アルミニウム</td><td>Al</td><td>銀白色</td><td>軟らかい</td><td>2.7</td><td>表面が白くなる。</td></tr><tr><td>鉄</td><td>Fe</td><td>銀白色</td><td>硬い</td><td>7.9</td><td>表面が黒くなる。</td></tr><tr><td>銅</td><td>Cu</td><td>赤色</td><td>中くらい</td><td>9.0</td><td>表面が茶褐色になる。</td></tr></table> ミニウムは、酸化されて表面が白くなる。<u>鉄は、酸化されて表面が黒くなる。</u>銅は、酸化されると表面が茶褐色になる。また、アルミニウム		金属	元素記号	見た目(色)	硬さ	密度 [g/cm³]	加熱したときのようす	アルミニウム	Al	銀白色	軟らかい	2.7	表面が白くなる。	鉄	Fe	銀白色	硬い	7.9	表面が黒くなる。	銅	Cu	赤色	中くらい	9.0	表面が茶褐色になる。	表1 観察・実験1の結果の例 <table><tr><th>金属</th><th>元素記号</th><th>見た目(色)</th><th>硬さ</th><th>密度 [g/cm³]</th><th>加熱したときのようす</th></tr><tr><td>アルミニウム</td><td>Al</td><td>銀白色</td><td>軟らかい</td><td>2.7</td><td>表面が白くなる。</td></tr><tr><td>鉄</td><td>Fe</td><td>銀白色</td><td>硬い</td><td>7.9</td><td>表面が黒くなる。</td></tr><tr><td>銅</td><td>Cu</td><td>赤色</td><td>中くらい</td><td>9.0</td><td>表面が黒くなる。</td></tr></table> ミニウムは、酸化されて表面が白くなる。<u>鉄や銅は、酸化されると表面が黒くなる。</u>また、アルミニウムを塩酸に入れると、水素を発生しな 削除			金属	元素記号	見た目(色)	硬さ	密度 [g/cm³]	加熱したときのようす	アルミニウム	Al	銀白色	軟らかい	2.7	表面が白くなる。	鉄	Fe	銀白色	硬い	7.9	表面が黒くなる。	銅	Cu	赤色	中くらい	9.0	表面が黒くなる。
金属	元素記号	見た目(色)	硬さ	密度 [g/cm³]	加熱したときのようす																																																		
アルミニウム	Al	銀白色	軟らかい	2.7	表面が白くなる。																																																		
鉄	Fe	銀白色	硬い	7.9	表面が黒くなる。																																																		
銅	Cu	赤色	中くらい	9.0	表面が茶褐色になる。																																																		
金属	元素記号	見た目(色)	硬さ	密度 [g/cm³]	加熱したときのようす																																																		
アルミニウム	Al	銀白色	軟らかい	2.7	表面が白くなる。																																																		
鉄	Fe	銀白色	硬い	7.9	表面が黒くなる。																																																		
銅	Cu	赤色	中くらい	9.0	表面が黒くなる。																																																		

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
3	84	33 - 35	(2)試験管に水滴が見られる場合には、加熱を止めると、その水滴が落ちてきて試験管が割れるおそれがあるので、<u>加熱を続けて水蒸気として追い出すようにする。</u>	(2)試験管内の反応のようすが落ち着いたら、石灰水の入った試験管に入れたガラス管を取り出してから、<u>火を止める。</u>
		図 b		